

～輝きの子育て～

2023年、うさぎ年！おめでとう

明けましておめでとうございます。今年も皆様様が、健康で、日々心穏やかに過ごせるよい年であることを願っております。

今年は“うさぎ年”ですね。愛くるしい赤い目で愛嬌たっぷり、人から可愛がられる、性格も温厚で子供達からも愛される動物であります。

童謡の中では「うさぎうさぎ、なにを見て跳ねる」、「ソソラソソラ、兎のダンス」「もしもし亀よ亀さんよ…」など、うさぎにちなんだ、かわいい歌があります。世界の童話や絵本の中にもピーターラビット・不思議な国のアリスなどで兎が登場します。

仏教の言い伝えによれば、倒れて弱った老人を見て、火の中に飛び込み、自分の肉を差し出した慈悲深い動物としてうさぎは献身の象徴とされているようです。

ちなみに、私事で恐縮ですが、主人（片野英司）はうさぎ年で今年3月で84歳です。

未だに、コロナ禍の中で、景気低迷も続き、少子高齢化が進む中、元気のない日本ではありますが、慈悲深いうさぎのように、多くの国民が回りの人々に気遣い、優しい気持ちで、自分の任務を全うすることが出来る社会であつたらと思います。

嬉しいこと、辛いこと、悲しいこと、楽しいこと、いろいろな事を重ね、あつという間に過ぎてしまう一年だと思いますが、よい年を願い、安らぎを頂ける次の詩をご紹介します。と思います。

片野 英子

作者は山崎昌伸氏、京都の北、美山の「茅葺の里」へ出掛けた折に見つけたものです。

ひとつふたつみっつ

不幸の数を数えるより

幸せの数 数えてみよう

ひとつ歳を数えて ひとつ美しく

またひとつ歳を重ねて

沢山優しくなります

こころゆくまで この風と語ります

険が閉じるまで

この風景を眺めたら

やっとやり直す 勇気が出来ました

疲れれば 休めばいい

心痛めれば 時の経つのを

待てばいい

大切な 夢の為

月の光をみていると

ほんのすこし優しくなったり

ほんのすこし涙をながしたり

にこにこして踊りたくなったり

元気をもらったり

すこしの間でいいから

自分だけのものにしてみたい

時間が止まる時 作 山崎昌伸